

垂水市で生まれた行進曲の父。彼の「軍艦」は、今も市民に愛される音楽である。

瀬戸口藤吉

Toukichi Setoguchi



▲昭和13年の帰郷時の様子（垂水小学校で講話をされた。）



▲軍艦行進曲40周年記念演奏会で指揮を揮う様子

今月の特集は、瀬戸口藤吉の功績と瀬戸口藤吉翁のふるさとコンサートに出演された海上自衛隊佐世保音楽隊の高野隊長へのインタビュー、瀬戸口藤吉翁記念行進曲特別コンサートの様子をご紹介します。



瀬戸口藤吉は、明治元年、垂水で瀬戸口覚兵衛の次男として生まれました。9歳の頃、初めて聴いた島津家お抱えの楽隊の音楽に深く感動します。同15年に海軍音楽隊へ入隊し、ドイツ語、ピアノ、クラ

リネットに打ち込み作曲について学びます。大正6年に海軍楽隊特務少尉を定年退官するまで、明治天皇御大葬儀、大正天皇御即位大札等においても指揮を揮いました。昭和12年には、「愛国行進曲」の作曲を手かけ、レコード100万枚の売上を記録し、大日本音楽協会より内閣総理大臣賞を受賞しました。瀬戸口藤吉は、「行進曲の父」と呼ばれ、多くの方々から愛される作曲家です。

次のページでは、海上自衛隊佐世保音楽隊の高野隊長が吹奏楽と瀬戸口藤吉への思いを話してくれました。



瀬戸口藤吉 略歴

- 明治元年 5月10日、瀬戸口覚兵衛の次男として垂水に生まれる。
- 明治15年 14歳 海軍音楽隊に入隊する。
- 明治30年 29歳 「軍艦の歌」で初めて作曲する。
- 明治33年 31歳 「軍艦の歌」を行進曲に編曲した「軍艦行進曲」を観艦式で初演奏する。
- 明治37年 36歳 海軍音楽隊隊長となる。
- 明治43年 42歳 「軍艦行進曲」を管弦楽団用に編曲した「軍艦マーチ」を初演奏する。
- 大正6年 49歳 海軍音楽隊特務少尉を定年退官する。
- 昭和13年 70歳 大日本音楽協会より内閣総理大臣賞を受賞し、妻と長女を伴って垂水に帰郷する。
- 昭和16年 11月8日、永眠。享年74歳。

瀬戸口藤吉翁のふるさとコンサート出演

海上自衛隊佐世保音楽隊



佐世保音楽隊長に 突撃インタビュー



Interviewee
海上自衛隊佐世保音楽隊 隊長
1等海尉 **高野賢一** さん

主とする。佐世保音楽隊独自の活動方針として「皆様に愛され親しまれる音楽隊」を掲げ、小・中・高生等に対する演奏指導等も行っている。

海上自衛隊佐世保音楽隊

昭和30年に佐世保補充部内の組織として誕生、昭和51年に佐世保地方総監直轄の音楽演奏を専門とする部隊として正式に編成が認められる。広報担当区域は、山口県から九州全域、沖縄県で「土気高揚のための音楽演奏」「儀式における音楽演奏」「広報のための音楽演奏」の任務を

Q 吹奏楽をはじめたきっかけ

私が高校生の時、地元で海上自衛隊東京音楽隊が演奏に来まして、その演奏を聴いて「すごく良い演奏されるなあ。こういう音楽隊があるのか」と知りました。それがきっかけで自衛隊音楽隊を希望するようになりました。自衛隊の方々の白い制服がかっこよかったのを今でも覚えています。特に地元の方がすごく上手にソコを弾いておられて、とても憧れました。

Q 瀬戸口藤吉の故郷である本市で演奏するお気持ちは？

瀬戸口藤吉先生は大先輩であられ

ますし、曲を聴けば日本で知らない人はいない、そういった曲をたくさん作っておられます。そんな大先輩の故郷で演奏するのは緊張しましたが、しっかり演奏し、音楽を届けようという心掛けました。

Q 瀬戸口藤吉作曲で好きな曲は？

私は海上自衛官ですので、やはり『行進曲「軍艦」』が一番好きです。シンプルなのですが力強く、明治時代の石炭を焚いて動かす軍艦のイメージがとても伝わってくる。そこが非常に好きです。

Q 吹奏楽を頑張ることもたちへアドバイスをお願いします

楽器を吹いていると、思い通りにならないことがたくさんあると思います。困ったときは基本に帰り、基礎練習を大切に行えば、必ず道は開けてくると思います。同じことを繰り返すのは結構辛いかもしれませんが、必ず後から役に立ちますので、しっかり大切に土台を積み重ねて頑張ってもらいたいです。